



One Earth Community
One Common Destiny

地球憲章アジア太平洋・日本委員会からの問題提起

裏面の“持続可能な開発目標”（SDG）は、2000年の「ミレニアム・サミット宣言」に基づき翌年定められたMDG（ミレニアム開発目標）を更に発展させ、2015年9月25日に持続可能な開発サミットが採択したものです。MDGは世界から貧困と飢えをなくすことを主眼に8つの開発目標を掲げ、その後の15年間に国連を中心とする活動のおかげで貧困と飢餓の減少と幼児死亡率、感染症の広がりへの削減などに立派な成果をあげてきました。

一方SDGはここ数年来の異常気象と災害や不安定な世界情勢を重視し、2030年を目途に人々と地球のために17の目標を掲げています。殊に地上生態系の保護と水と海洋資源を含む地球環境の保全を重視し、都市と人間居住地を安全でレジリエントで持続可能にするための方法を具体的目標としています。更に、ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女兒のエンパワーメントを図ること、国内および国家間の不平等を是正し、持続可能な消費と生産のパターンを確保しつつ、平和と正義が守られるような制度を構築することを強調しています。

国連は創立70周年を迎え、国家や地域や民族を中心とした内向な考え方から、地球共同体の保全と繁栄への未来思考に導かれたパートナーシップ育成に向かっています。一方最近いくつかの国では、2000年に世界中の一般市民の参加によって作成された地球憲章が強調する平和と非暴力、人権と民主主義に逆行する動きがあります。これに対して、一人ひとりが自分で考え、意見と希望を共有する人々が、若者も含め、皆で行動する傾向もみられることは喜ばしい限りです。

地球憲章をベースとしたミュージカル”Our Blue Planet”をご覧になった皆様、これからの地球の未来に対して危機感を共有し、“地球憲章”の精神に共感し、“持続可能な開発目標”の達成に参加して下さることを、地球憲章アジア太平洋・日本委員会としても心から願っております。



委員会代表
元環境庁長官、
参議院議員、地
球憲章起草委員

広中和歌子



委員会副代表
成蹊大学名誉教授
環境パートナーシ
ップ会議代表理事

広野良吉



委員会理事
ICU 社会科学
研究所顧問
元国連事務総
長特別代表

功刀達朗

「まんが地球憲章」は、2014年11月に名古屋で開かれたユネスコ世界会議「持続可能な開発のための教育」に、著名なまんが家山井教雄氏の協力を得て提出されました。（発案・企画・監修：功刀）日・英別冊の美しいまんが本は好評を博し、残部はもうありません。進行中の国連の重要な共同作業が軌道に乗った後に、改訂版を制作予定です。中学、高校などで教材として、或いは市民集会でご使用を希望の際はpdf版を提供しますので、ご連絡ください。